

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第33号
2016年8月発行



3 C活動、青空の下で記念撮影♪

もくじ CONTENTS

新たな業務体制の構築へ
～先進機器の導入～

・・・ 2

機器の活用を通して
～三つの事例から～

・・・ 3

障害者施設トピックス

・・・ 4

未来へ向かって進むために

・・・ 5

芳香会活動報告 ・・・ 6

芳香会スケジュール ・・・ 6

編集後記 ・・・ 6



2016年4月14日に発生した熊本地震において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げるとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

機器の活用を通して 三つの事例から

前項で先進機器等の導入に関する当法人の考え方やこれまでの経過をご紹介しました。本稿では三つの事例を抽出し、導入の経緯やその効果について詳しくご紹介します。

自動水遣り器 芳香会病院青嵐荘療育園

夏が近づくと、厳しい暑さのことを考えて憂うつになりますね。電気はなるべく使いたくないけれど、涼しく過ごしたいものです。

芳香会病院青嵐荘療育園では、毎年グリーンカーテンを作っており、今年は朝顔のグリーンカーテンにしました。

ただ、そのグリーンカーテン、エコで涼しくとても便利なものではありませんが、毎日ホースを使って一つ一つのプランターに水をやらなければならず、これはとても大変な作業です。

そこで導入したのが自動水遣り器です。これは水道の蛇口に設置し、ホースを繋ぎタイマーをセットするだけで、定期的に水遣りを行ってくれる優れものです。

水遣りを担当していた職員からも、とても楽になったと喜びの声が聞かれました。また、自動水遣り器を初めて導入した平成二十六年には、古河市みどりのカーテンコンテストで最優秀賞を頂きました。



ちよつとした工夫でエコに涼しく、今年の暑い夏をみんなで乗り切りましょう。

【芳香会病院青嵐荘療育園 児童指導員 齋藤修治】

介護用リフト 青嵐荘つくし園



リフト導入の大きなきっかけは、平成二十五年の「職場における腰痛予防対策指針」の改定でした。当施設では、近年ご利用者の高齢化・重度化が進み、以前よりも介護作業における腰痛などのリスクが高まり、慢性的腰痛に悩む職員が多く見受けられるようになりました。

リフト導入による良い効果は理解していましたが、実際の介護現場では、面倒くさい・時間がかかる等、マイナスの意見ばかりでした。そこで、リフトに関する情報収集、デモ機の使用、勉強会の開催、導入施設見学等を行い職員の意識改善に努めました。その結果、現在では床走行式リフトが三台稼働し、対象者も二名から八名に増えました。使用状況の変化として、職員からは「リフトを使用すれば長く働ける」、「別の方にも使用できるのではないか」、「ご利用者からも「自分も使用して欲しい」といった意見が聞かれるようになりました。今後使用の定着化と抱え上げない介護を目指し、他事業所とも連携しながら取り組みを進めたいと思います。



【青嵐荘つくし園 係長（理学療法士） 吉田真純】

生ごみ処理機 青嵐荘路のとう舎



青嵐荘路のとう舎では、平成十三年に「バイオ発酵式生ごみ処理機」を導入しました。

導入に至った理由として、路のとう舎開設当時から日々出される生ごみの処理が常に課題としてあり、当初は近隣の行政班のご好意で一般の家庭ゴミとして出させてもらいましたが、量が多くご迷惑をかけ通しました。その後は専門業者と契約を結び有料にて処理をしていたのですが、費用の面や夏場の衛生面に課題があった為、本機器の導入に至りました。

本機器は生ごみを堆肥へと生まれ変わらせる機能を持っています。その堆肥を当施設の畑で使用し、一部循環型による野菜作りが実践可能となりました。

導入当時、福祉施設での生ごみ処理機はあまり普及されておらず、珍しい事例であったようです。

この一台を取り入れたことから、現在では他の障害者施設や保育園において、生ごみが「液肥」になる生ごみ処理機を設置しました。また、保育園では液肥を保護者や近隣の保育園に配布したり、障害者施設では職員や知人に配布し、有効利用しています。今後、このような環境にやさしい機器の活用に努力いたします。



【青嵐荘路のとう舎 副主任相談支援員 石田博紀】

石田博紀

障害者施設トピックス

地域の民間防災拠点施設をめぐって

青嵐荘療養園



青嵐荘療養園では、平成二十七年に太陽光発電及び蓄電システムの導入工事を実施しました。導入の主な目的は、非常時の電源確保や日常での節電対策です。設備の概要は、太陽電池三十キロワット、蓄電池三十キロワットとなっており、昼間太陽電池で発電した電気は一部蓄電池に充電されますが、それ以外は全て施設内で自家消費されています。停電時においては、昼間であれば太陽電池で発電した電気を使用し、夜間であれば蓄電池に充電されている電気を放電し使用します。

当該事業では、災害発生時に約三十名の被災者受入れができるよう、建物内の一部を避難スペースとして開放する計画となっております。今後の目標は、古河市から民間福祉避難所の指定を受け、地域の民間防災拠点施設としての役割を果たし、地域貢献をしていくことです。

笑顔の花咲く、レクリエーション

青嵐荘療養園

青嵐荘療養園では、六月一日にグループレクリエーション「歌のお姉さんとマジシャンによるマジックショー」を実施しました。

マジックショーでは、玉が宙を舞うマジックやお金が増えるマジック等、驚きの連続で大変

感動しました。驚いたり、笑ったりと、ご利用者の素敵な表情が多く見られました。歌のショーでは、みんなが知っている童謡や



テンポの速い曲になると、ご利用者も自然と笑顔になり時折、声を出して喜ぶ姿が見られ、音楽に合わせて体を動かしているご利用者もいました。歌のお姉さんは、とても優しく明るい方で、私達も元気をいただく事が出来ました。

今回のレクリエーションを通して、定期的にイベントを取り入れる事が効果的であり、日常に楽しみを取り入れる必要性を知る事が出来ました。今後もご利用者が楽しく日々の生活を送ることの出来るよう接していきたいです。

新たな作業への挑戦と仲間づくり

青嵐荘のとう舎

青嵐荘のとう舎では、新たな作業に取り組み始めました。農・園芸、リサイクル作業、内職作業。これまでも就労的作業に従事するご利用者は全体の約三割おりました。目標は、より多くの人に就労的作業に従事してもらうことです。多くのご利用者に“働く”を意識した就労的作業を継続して行っていくために、ご利用者の障害特性を理解し、働きやすい環境設定などの支援を行っています。

今回、新たに取り組む作業はヒマラヤ産岩塩の重量を測り、個別包装することです。ゴミは入っていないか、重量は合っているか、非常に精密さが求められる作業です。この作業に従事することによって、新たに就労



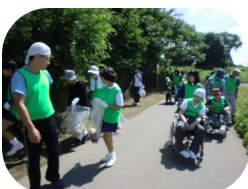
的作業に従事する仲間が増えました。また、今回は諸川地区にある会社から直接施設宛に連絡をいただきました。このように仕事を紹介してくださる地域の方々には大変感謝致します。

今後も働く仲間が増えるように啓発活動にも力を入れて、いただいた新しい仕事を根気よく続けて行きます。

地域との絆、3C活動

青嵐荘つくし園

六月十一日、今回で第十一回目となる3C活動が行われました。当日は天候にも恵まれ、ご利用者・ご家族そして、古河市立三和北・東中学校の生徒・先生と総勢八十名の方が参加し、いつも以上に賑やかな清掃活動を実施することが出来ました。生徒の中には小学生の時に参加経験がある生徒も数名おり、この日を楽しみにされていたとのお話を伺いました。その生徒達をふと見ると、自然とご利用者の車いすに手を添え会話を楽しみ、一緒に清掃をする姿に微笑ましく感じました。後で、ご利用者から話を伺うと「楽しかったよ。また来てほしい。」との声が聞かれました。また、新たに企画した福祉機器体験においては、初めて見る福祉機器に興味や関心を示し、質問をされる生徒も多数おりました。平成二十三年より地域と“つなげる”ことから始まった3C活動ですが、現在では地域と“つながり”地域に根差した活動へと前進してきたように思えます。私たちは地域の福祉拠点としての役割を担い、「障がいや障がいのある方への理解を深め、共生社会への実現」を目指した活動を今後も継続して行っていくしたいと思います。



未来へ向かって進むために



芳香会では、ご利用者やご家族、または職員間においてもきちんとしたマナーを持つて接することのできるよう、新入職員に対し、ビジネスマナー研修を実施しております。

また、福利厚生企画として開催しました雇用障害者の交流会の模様をご紹介したいと思います。

ビジネスマナー研修を受けて

芳香会病院青嵐荘療育園 清塚理学療法士

五月二十九日に外部講師によるビジネスマナー研修が行われ、参加させていただきました。今回の研修には主に芳香会の新入職員が参加しました。私は、新社会人として四月に芳香会に入職したばかりで、ビジネスマナーについてほとんど学んだことがありませんでした。



研修は、ビジネスマナーを学ぶ理由を考えることから始まり、正しい敬語の使い方や挨拶について、声の出し方や早口言葉の練習まで、様々な項目が凝縮されたものでした。礼儀とは、自分以外のすべての人に対する敬意や謝意を表す為のものであり、礼儀の中には、挨拶や態度、言葉遣い、服装などが含まれます。その中でも、特に時間をかけて考えたのは挨拶でした。毎日必ず行うことであり習慣化している挨拶ですが、気持ちの良い挨拶には、お辞儀やア

イコンタクト、お腹から声を出すこと、はつきり言葉を発声することなど、様々な要素含まれているということでした。そして気持ちの良い挨拶は周囲にも広がります。研修に参加した職員がそれぞれの職場で学んだことを実践することで、その他の職員にも良い刺激になると思います。相手との仲が深まると、様々なことが当たり前になることで感謝の気持ちが薄れ、礼儀を忘れてしまいがちですが、どのような対人関係においても、礼儀はとても大切であり、常に忘れてはならないという事を学びました。私にとって、職場におけるマナーのみならず、日常生活における対人関係についても考えさせられる研修となりました。

研修翌日には本採用辞令を受け、さらに身が引き締まりました。入職して数か月でまだまだ至らない部分もあると思いますが、今後も芳香会の理学療法士として精一杯頑張りたいと思います。



雇用障害者の交流会

青嵐荘路のとう舎 池田主任生活支援員

六月二十八日、暑さに余韻が残る夕方、下総ボーリング場に雇用障害者の皆さん十三名と、職員六名が集合しました。今回の交流会は、ボーリングと食事会でお互いの親睦を深めてもらうだけでなく、新規雇用者や退職者の歓送迎会も兼ねての開催です。午後四時からという、時間的にも少し早い開始でしたので、ボーリング場は貸切状態の中、スタートしました。

五チームに分かれ、二ゲーム行いました。ゲーム中、どのチームからも「おーっ!」という歓声や拍手が聞かれ、中には仲間同士でハイタッチをして喜びを分かち合っている方もいました。大いに盛り上がり、気持ちの良い汗をかけたのではないのでしょうか。

続いて場所を移動し、食事会と表彰式です。メニュー表を開き、各々好きなメニューを注文しました。食事が出来るまでの間、ボーリング大会の表彰を行いました。二ゲームの合計スコア上位三名には素敵な景品が手渡され、受け取った方はとても嬉しそうでした。また新規雇用者からの挨拶では、これから頑張るぞという意気込みが感じられ、全員で「これからよろしくお願いします」と拍手で迎えました。

できたての熱々料理を食べながらの歓談では、先ほどのボーリングの話や日頃の生活の話、仕事や趣味など話題は尽きません。楽しい時間は早く感じます。あつという間に時間が過ぎてしまいました。



六月いっぱいまで退職される方から挨拶をいただき、理事長より記念品が手渡されました。長い間、一緒に仕事を頑張ってきた仲間たちから「おつかれさまでした」と温かい拍手が会場を包み込みました。今回の交流会を通して、仲間として一層、絆が深まったように感じました。そして私たち職員は皆さんが一年でも長く仕事を継続できるよう支援して行きます。



芳香会活動報告



ほたる祭り

熊本被災地支援開始



平成二十八年六月四日(土)古河市にあるネーブルパークにて「第十三回ほたる祭り」が開催されました。毎年五月下旬または六月上旬に公園内の川で自生した蛍を鑑賞する祭りとして行われています。蛍の生育条件はいくつかありますが、水質が良く、水がきれいであることは必須条件です。自生可能な環境を整えることは大変困難だそうです。また、厳しい条件の中、成虫した蛍は十日程で一生が終わると教えて頂きました。



メインとなるほたる観賞は十九時半からですが、イベントは十五時半から行われます。地域で活動している団体や保育園児によるステージ発表、模擬店での物販等、各種催しが会場を盛り上げます。私たち芳香会からも青嵐荘つくし園が参加し、和太鼓の演奏を披露しました。多くの方々から温かい拍手を頂き、ご利用者の生き生きとした表情がとても印象的でした。

また、芳香会も一つのブースを借用し、熊本県セルプ製品の代理販売を行いました。四月に起きた地震の影響を受け、熊本県内で働く障害者が製作をした商品の販路確保、売り上げ向上につなげたいという



思いから、代理販売を実施するに至りました。今回は御船町の「社会福祉法人ひまわり学園」と宇城市の「社会福祉法人熊本県手をつなぐ育成会」から、それぞれクッキーやドーナツ、くまモンかごを購入しました。商品の一つひとつがきれいに袋詰めされており、丁寧な仕事ぶりが見て取れました。なお、商品は皆様のご協力のもと無事完売することが出来ました。ほたる祭りは蛍を楽しむだけでなく、様々なイベントを通して地域交流や多世代交流の場となっています。芳香会も社会福祉法人として、ステージ発表への参加や物販を行うことでその一端を担うことが出来るよう努めて参りたいと思います。

販売ブースの様々



セルプ商品のご紹介



くまモンかごの代理販売を実施いたしました



芳香会スケジュール

八月 十九日 苦情受付体制委員会

八月 二十六日 リーダーフォローアップ 主催研修会

九月中旬 お楽しみクジ抽選会 研修会

十月上旬 交通安全講習

上大野グラウンド前花壇

植栽活動

編集後記

今年も猛暑の長い夏となりそうです。日本は環境教育がとても遅れた国とも言われています。温暖化現象は、世界中あらゆる国が、負わなければならぬつけです。今更と思うことも再考し、小さなことから環境保護推進の努力をしたいと考えています。(光)

療護園のエントランスにツバメが飛来しています。何度も何度も巣を作ろうと試みており、生命の素晴らしさや逞しさを感じています。今夏も猛暑の予報が出ておりますが、人間も動物も元気に過ごせる事を願うばかりです。(賢)

今号より、編集に携わることとなりました。今後とも芳香会でのあらゆる活動を分かりやすく皆さまにお伝えできるように精一杯努力して参ります。また、次号でお会いしましょう。(絢)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp